

# フェートン号事件を検証する ■講師:大井 昇

2021年1月23日(土) 14:00~16:00 (ルームオープン 13:30)

Zoomにて開催 参加費無料

フェートン号事件とは1808年8月イギリス軍艦フェートン号が長崎港内に侵入し、出島のオランダ商館員2人を捕虜とし、水や食料品、牛を強要し退去、長崎奉行松平図書頭の引責切腹という悲劇を起こした良く知られた事件である。

この報告は、オランダおよびイギリス側の史料、日本側の今まで見逃されていた史料などを通し、フェートン号事件に係る数々の疑問を検証する。すなわち、フェートン号来航の真の目的、長崎奉行の反応、国際公法についての認識、フェートン号事件は不意打ちであったとする通説、当時の台場(石火矢台)の状態、焼打ちなどの攻撃は可能で勝ち目はあったか、奉行はなぜ切腹したのか、などについて検証を試みる。

## ■大井 昇(おおい のぼる) 日本海事史学会会員

原子力技術者として東芝で35年勤め、役職定年後、ウイーンの国際原子力機関(IAEA)で8年間勤務。帰国後、原子力産業会議参与、大学の非常勤講師など。2002年になり、江戸で御徒を勤めていた曾祖父が長崎奉行与力として派遣されたことを知り、歴史の勉強の道に入り『幕臣サブロスキー、江戸と長崎で終焉を見た男』(2007、長崎文献社)を刊行。その後、洋学史研究会を抛りどころとして、長崎奉行所関連の研究と範囲は広がり『長崎絵図帖の世界』(2019、長崎文献社)を刊行するなど。2019年洋学史研究会は解散となり、日本海事史研究会に入会。



「阿蘭陀船入津之図」(部分) 文錦堂/1800年(寛政12)  
[国立国会図書館デジタルコレクションより]

イギリス船フェートン号はこの図に見られるような三色旗を掲げオランダ船を装って長崎に入津した

- 会員は申込不要。**ご案内をメールでお送りします。  
メールアドレス未登録の方は、右の申込先までご連絡ください。
- 非会員の方は、メールでお申し込みください。**  
※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。  
お申込みいただいた方には1月21日(木)までにご連絡いたします。

■**申込〆切:**2021年1月20日(水) 正午(12:00)

■**申込先:** ofune@babit.info 大野康世

メールの件名を「日本海事史学会 Web 例会申し込み(会員)」  
または「日本海事史学会 Web 例会申し込み(非会員)」として  
本文にはお名前をお書きください。

◆ 次回予定: 第5回 Web 例会 2月27日(土) 14:00 ◆

「オモキ造りの構造とその技術—富山県氷見地域のドブネを中心に—」 廣瀬直樹氏(会員)

[今後の開催予定日: 3月20日(土祝)・4月24日(土)・5月22日(土)]

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文科学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行(年1回) / 総会(年1回)・例会(8月と総会開催月を除く年10回) など

●**対面での例会は、非会員の方も申込不要でご参加いただけます。**

[対面での例会再開日は未定ですが、決まり次第 Web サイト <http://kaijishi.jp/> でお知らせします]

